

黒文字はリーディング部分。

今回ひぐちが新たに書き加えたト書き。

パソコン画面を読む。

赤俳優に覚えてもらうセリフ。

どのセリフも戯曲からのコラージュ。

舞台は二つのエリアで構成される。

ひとつは、台本をReadingするReadingエリア。

もうひとつは、「言葉たち」が待機するパソコンエリア。

Readingエリアとパソコンエリアを行き来しながら舞台は進む。

はじまり

劇場は真っ暗闇からはじまる。

聞こえるのは、

たったひとつの呼吸音。

吐く。

吸う、吐く。

吸う、吐く。

やがて、そこに。

もうひとつ、

またひとつと、

呼吸音は増えて、

増えて、

増えて、

ひとつの大きな塊になった、その瞬間。

青白い光。

パソコンが開かれた。

ぴたりと、呼吸音は止まる。

パソコンを開いたのは、言葉高道。

椅子に座って、画面をじっと見つめている。
よく見る。

と。

その背後に影。

言葉たちの塊。

それらは言葉高道をじっと見つめ。

ささやいた。

まるで内側から。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉澤田 人間は何で出来ていると思う？

言葉中川 肉と内臓と、言葉だ。

言葉真嶋 皮膚の一枚に。

言葉小笠原 肉と内臓を生きながら燃やすことは出来ないけれど、

言葉小西 言葉は燃えるんだ。

言葉大路 皮膚の下で。

言葉太田 言葉は燃えるんだ。

パソコンに向かった言葉高道、ふっと両指をかまえて。

言葉高道 だから書かなきゃ。

指が、キーを滑る。

ささやく内側の言葉をとらえてキーを打つ。

言葉澤田 そこに

言葉高道 そこに人間がいて、

言葉中川 そこに

言葉高道 そこに争いがあつて、

言葉真嶋 言葉を

言葉高道 言葉を費やして、残ったもの。

言葉小笠原 弾丸

言葉高道 弾丸であり、言葉。

言葉小西 そして

言葉高道 そしてやってくる無音。

言葉大路 言葉の

言葉高道 言葉のない世界。

言葉太田 そこに

言葉高道 そこにまた人は言葉を降り注ぎ、

言葉高道 また新しい生命体を探し始めるのだ。

静かに、聞く。

言葉澤田 見えます。

言葉中川 見えるか。

言葉真嶋 見えます。

言葉小笠原 何が見える？

言葉小西 見えませんか？

言葉大路 見える。

言葉太田 見える。

言葉澤田 見える。

言葉中川 見える。

言葉真嶋 見える。

言葉小笠原 見える。

言葉小西 見える。

言葉大路 見える。

言葉太田 見える。

ささやきを打つ。

言葉高道 見える。

ぽ

ひとつ。

頭上に小さくあかりがついた。

言葉たち、見上げた。

2004年 『フルオーケストラ』

言葉高道 その瞬間、金網越しから手を伸ばして、奇々が裸々の首をつかんだ。

言葉高道の背後から、言葉大路と、言葉中川が抜け出し

Reading ヒリアへ。

奇々 ぬるいよ。裸々。自分で13昇るんだから。

裸々 ちよつと……

奇々 何やったって僕らはその罰を受けることは絶対ないんだから、年齢？
違うね、その問題じゃない。あれって人のための法律だから。今、ここに隔離されてるわけじゃない？ 僕らが街に出ると乱れるんだ、日常が。なのにもともに罰を与えられないのは、僕らが雑音だから。ほら、13数えてみて。

裸々 いち、に……

奇々 違うって。ド、レ、ミ、はいどうぞ。

裸々 ドレミファソラシドレミファソラ、

奇々 はい、13。ね。発見発見。だから想像で、13昇るの。雑音からメロディに変わるために。そした、ラ、人からズレた僕らは人に戻る。

裸々 苦し……

奇々 うん。苦しいよね。

裸々 助けて……

奇々 そう。自分が分からないことを知るの、体験するか、想像以上の想像力を使うか、どっちか。

裸々 死んじやう……

奇々 そうだね。死んじやうね。どうやったらラが叫ぶのか。ほら、死んじやう前に死ぬ気で想像しなきゃ。人に戻る前に死んじやイミないから。ホントに死んじやうよ。

裸々 ……ソド……

奇々 え？

裸々 ウソの音……だから、本気じゃない。

言葉高道 思わず手を離す奇々。

奇々 何それ？
裸々 つつげえ。

言葉高道 ゴホゴホとむせる裸々。

裸々 だから……奇々って、変なことばかり言うけど、ウソはつかないの。

奇々 ウソがないってなんで分かる？

裸々 ソドを使わないもの。

奇々 は？

裸々 声がね、ちよつとへんてこに高くなるもの。ウソを言う時。

奇々 誰でも？

裸々 誰でも。

奇々 ホントに？

裸々 ウソは、ソド。馬鹿にした時はソファ。悔しい時はドドド。楽しい時は

ラララ。意地悪な笑いはシシシ。あの子キライって言っても、照れ隠しの

時はミド。生まれつき。毎日うるさい。ゲーよ。呪文みたい。

奇々 言葉の裏側が聞こえるんだ。

裸々 だから、苦しかったけど、本気じゃないって分かった。

奇々 これをやると、みんな次の日からここに来なくなるんだ。

裸々 え？

奇々 みんな本気にして、そんなわけないのに。僕に殺されるって勘違いする

自分のやったことがどれだけひどいか分かったって、感謝してここを出て行

くんだ。せつかく教えてあげようとしたのに。

裸々 うん？

奇々 いつかでかいことしでかすよ。

裸々 どういうこと？

奇々 世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動し

てきた人々は、シニアルの平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは「れん

がを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを。しつ
くいの代わりにアスファルトを用いた。彼らは「さあ、天まで届く塔のある
町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよ
う」と言った。

裸々 何それ。

奇々 主は降りて来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた
「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし
始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々
は降りて行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられ
ぬようにしてしまおう」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らは
この町の建設をやめた……だって。神様のせいにしてる。どう思う？

裸々 言葉が通じなくなっただって、言ったじゃない。

奇々 おかしいよ。同じ言葉なら通じるっておかしい。裸々だって同じ言葉が
通じなかったから、こうなっちゃったんだろ？ だって自信ある？ また同じ
ことしないって。

裸々 やめてよ。

奇々 うん？

裸々 レレレ、レばかりで話さないで。

奇々 レって何？

裸々 レの音は、責める音だから。

奇々 責めてない。だって僕と同じだから。僕は裸々で、裸々は僕で、ちよっ
とだけ違うのは、僕には計画があったから、だから半年で済んだ。

裸々 計画？

奇々 例えば、レンガ積み上げたらどこまで行く？

裸々 手が届くところまで。

奇々 それで完成？

裸々 知らない。

奇々 完成しちゃったらどうなる？

裸々 知らないわよ。

奇々 想像しろよ。完成したら、

裸々 したら？

奇々 あとは崩れるしかない。それを神様のせいにしちゃいけない。きっと神

さまはバランスを取っただけなんだ。完成させようとするから駄目なんだ。積み上げたら崩れる。ルールってバランスだよ。高く積み上げれば積み上げるほど、ほら、分かる？

裸々 崩れたら、すごい。

奇々 そう。僕らも積み上げてる。

裸々 何を？

奇々 時間と感情。

裸々 成長期だもん。

奇々 だから、裸々みたいに大きく崩れる前に、神様みたいに自分でバランスを取る。

裸々 どうやって？

奇々 少しずつ、自分で壊すんだ。大きな被害が来る前に、自分で小さな被害を作る計画。

裸々 だから、常連なの？

奇々 そう。このことをみんなに教えようとしているのに、もう絶対にしないなんて、ありえないね。いつか取り返しのつかないでかいこととして、本当に

13昇るんだ。僕なら、計画立てて、想像で13昇るよ。

裸々 奇々ってさ、繰り返すのは、生まれつきだからだって思ったことない？

奇々 そんな人間いないね。

裸々 私は、生まれつきズレてない？

奇々 違うよ。けどズレていくだけ。だって僕らは生きているんだから。

裸々 ねえ、も1回やって。

奇々 え？

裸々 本気で、って、奇々の計画があるから、本気のウソでいいから。

奇々 そんなこと言ったの、裸々が初めてだ。

言葉高道 金網越しに奇々が手を伸ばして裸々の首をつかむ。

裸々 分からないの。分かることは高いフェンス、町はあっち。虫が鳴いてる足が痛い。

奇々 痛みを感じろって方針だから。

裸々 痛みなら知ってる。分からないのは、私の痛いレベル3は他の人のどの

レベルなのかってこと。

奇々 痛い？

裸々 ううん、奇々の手が冷たい。ひんやりして、気持ちいいくらい。ねえ、も1回言つて。

奇々 雑音からメロディに変わるために。そして、ラ、人からズレた僕らは人に戻れる。

裸々 自分が分からないことを知るのには、体験するか、想像以上の想像力を使うか。

奇々 どうやったたら、ラが叫べるのか。ほら、死んじゃう前に死ぬ気で想像しなきゃ。

裸々 ねえ、私にもちやんとあるのかな、始まりの……

奇々 酸素が肺に送り込まれてラの音が出る。きっと誰も想像なんかしないよ金網越しの僕らの会話。裸々は、どんなラを叫ぶ？

裸々 ラ……？

言葉たち、長音の発声練習のように「ラ」を発する。

ラー……
ラー……
ラー……
ラー……
ラー……

ラがいつの間にかメロディに変化して。

やがてラとも判別のつかないハミングになって。

その歌はどうやら作詞、高野辰之、作曲、岡野貞一の「故郷」らしい。

言葉大路与言葉中川は、パソコンエリアに戻り、

代わりに、言葉小笠原、言葉小西がReadingエリアへ。

ぽ、ふたつめのあかりが灯る。

日ので 生まれてこのかたこの十数年。初めて生身の世界に足踏み入れました
訳あって、人を探して歩いております。そんなあたしの職業は、虫も殺さな
い、かぎ分けを生業としております。食卓に並ぶ夕食の匂い、冬の道端焚き
火の匂い、少女が残していった髪の毛の香り、子供が服につけて帰ってきたひな
たぼっこの匂い、女が誘うための匂い、男が誘うための匂い、ヒノキのお風
呂の匂い、草花の匂い、雨の匂い、春の匂い、夏の匂い、秋の匂い、冬の匂
い、おや、南から春の匂いだ。風に乗ってやってくる。そのアナタ、故郷
の匂いを知ってるかい？ 調香師日のでが作ってみせましょうか。

扉男 ひとつだけ、教えて欲しいんですけど。

日ので 大人が聞くなつてのな、

扉男 ここは、日本だよね？

日ので そんなことも知らないで今までのな？ よく眺めたことないの？
観察力ゼロ。

扉男 答えになつてない。

日ので 何かないの？ 嗅ぎたい匂いって。

扉男 できれば俺の部屋の匂いを嗅ぎたいよ。

日ので はー。それどんな匂い？

扉男 どうなってる、

日ので いくつか教えてもらわなきゃ調べできないのな。

扉男 普通だよ、どこにでもある一人暮らしの男の、

日ので 普通の匂い？ 何それ、他には？

扉男 え……？

日ので じゃ何でもいいよ。何かないのかな？ 嗅ぎたいやつ。

扉男 ベッド。布団がふかふかで、シーツだってキレイで、

日ので それどんな匂い？

扉男 たまの休みの日に、母親が来てやっとベランダで干して、晴れてて、昼下がりの、だから、ベッドが日向の匂いがして。

日ので 昼下りのお日さんの匂いね。

日ので ひまわりの花びらがあってよかった。少し似てるから。ほら。

扉男 そう、言われたらそんな感じもするけど、

日ので 何？

扉男 少し、眠い……

日ので 鼻から吸ったら脳につながるのな。覚えてるんだって。匂いで記憶を？ 記憶が匂いを？ どっちが先か知らないけど。ちよっとー、ちゃんと匂い料金払って欲しいのな。

扉男 旅行なら、気晴らしに、何度もしたけど、いつだって、最後は、ただいまって、帰ってきたから。

日ので のな？

扉男 ……だから、あるはずなんだって、俺の、帰る、玄関……

日ので お師匠言った通り。シラズはいつでも彷徨ってら。へっくち。のな？ 風が出てきた……風に、乗るかな。お師匠、あたし絶対ノット・スメル・シシュウを完成させるからのー！ 見とけー！ 驚くのなー！

のなー、のなー、のなーと声がこだまする。

言葉太田、Reading エリアへ。

日ので 母はとうの昔に雲の上。

日ので 父は虫も殺さぬかぎ分けを生業としてその鼻どんな匂いも嗅ぎ分けて
生身の人間をよせつけけないほどの鼻の良さ。人間からは死臭がする。父とは
決して呼ぶなど言われ、捨て置かれた今年の2月。

言葉高道 夏の暑さで蒸れて死臭が余計にひどい。

言葉高道 島に扉男ひとりきり。

言葉高道 無数の棺桶が並ぶ。

扉男 もう、棺桶しか、戻って、こないんだ、ここには。

言葉高道 そしてひとつの棺桶の扉を開けたその時。

扉男 ！

マスノスケ ……ここは？

マスノスケ なあ、おい、ここは……？

扉男 ここは、ここは……日本です。

マスノスケ 棺桶に片足つつこんでるってまさにこれ。

扉男 確認されなかったんですか？

マスノスケ そりやさんなもんよ。

扉男 連絡入れます。こんなこと滅多にないんだけど、

マスノスケ ああ、いらねえよ。

扉男 いらね……って。片足突っ込んでんですよ！？

マスノスケ こういうのが時間の問題ってやつだな。

扉男 のん気に言ってるけどリアルだからその言い方。

マスノスケ せっかくなんだから。

扉男 え？

マスノスケ これだけの風景だ。なら嫌ってほど死臭が漂ってるはずなのに、ありがたいね。ちつとも匂わねえ。

扉男 そりゃ片足突っ込んでんですから。

マスノスケ そのうち目もかすむねえ。

扉男 片足、突っ込んでんですから……

マスノスケ 顔をしかめずに誰かと話なんてものが出来るんだ。もったいねえ
こんな時間。夕日が沈むまで、今まで出来なかった、顔寄せ合って喋り倒し
たい気分だ。

扉男 夕日……？ 今じゃ太陽は昇ったきり、沈みませんよ。いつだって真昼み
たいで。

マスノスケ 違うよ。私の夕日のことよ。

扉男 え？

マスノスケ 私が目を閉じれば、夕日が沈む。

扉男 ちよつと……

マスノスケ 目、開けるとまぶしい太陽見なきゃいけないもんな。

扉男 大丈夫ですか……？

マスノスケ あれだなあ。夕日の短いあの時間みたいなもんだ。まだ沈むなよ
まだ遊んでいたいんだ。まだもう少しだけ、まだ大丈夫な気がするのに、瞼
が、もう、勝手に落ちていくんだ……

扉男 ちよつと、大丈夫ですか？ ちよつと、

言葉高道 足についている証明書の名前を確認して。

扉男 マスノスケさん、マスノスケさん！

扉男 ……キツイ……きついつて。喋らない死体なら、もう……やっとなれた
のに……

マスノスケ というわけで、ちよつと話でもせんか？

扉男 余力残ってんじゃないですか！

マスノスケ 私も思ったねえ、結構しぶといもんだ人間は。

扉男 ……もろいです。

マスノスケ 若いときはそう思うもんよ。あんたは？

扉男 え？

マスノスケ あんたも帰ってきたのか？

扉男 いえ。僕は仕事で、ずっと、僕はずっと、

マスノスケ ずっと？

扉男 ずっとここにいたんです。それに気がつくのに、ずいぶん時間がかかりました。

マスノスケ ……ああ、あんた元シラズか？

扉男 知らずにいたほうが良かったのか、悪かったのか。もうどっちか分かりませんけど。戻される棺桶を整理して、身元の確認、連絡をとって引き取りそれ以外は、ここに。開けたりしなきゃね、これが棺桶だつてことさえ、気がつかない。

マスノスケ シラズにこんな仕事できないだろう？

扉男 知らなかったから出来ていたんだと思いますけど。でも、知っちゃったから。

マスノスケ イラズにはならなかったのか？

扉男 知っちゃったから、いらねえって出て行くこともできません。結局、戻って来るんだし、

マスノスケ こうやって？ 最後は故郷の土に埋められるわけか。私も。

扉男 家族は？

マスノスケ いいや。かまわんよ。どこに埋められようが、広く考えりやここが故郷だ。いいんだ。帰りたいかったんだ。絶望すりゃ誰だつて故郷に帰るさ。

扉男 マスノスケ……

マスノスケ おかしなもんで、故郷から遠く離れば、故郷がよく見えて、故郷に戻ると、旅先で出会ったものがよく見える。どんなもんかね、これはあれだな、家族と住んでいるところは親が鬱陶しくて彼氏のところに入り浸るけれど、結婚すると旦那がうっとおしくなって実家に入り浸るみたいなものか。あはははは。

扉男 あれ？ どっかで……

マスノスケ なあ、あんた。夕日が沈むまで。

扉男 はい、やっぱりすぐに連絡……

マスノスケ どうせ止められんよ、日が沈むのは。だからせめてきれいに沈みたいと思ってるんだ、夕日だつて。

扉男 僕に、見届けろつて言うんですか。

マスノスケ 喋り倒したいだけだ。他に人がいるならあんたでなくていいが。

扉男 近くに、僕しかいませんね。

マスノスケ 付き合ってくれ。

扉男 見ず知らずの僕です。

マスノスケ 今出会ったからもう知り合いだ。

扉男 二度と出会えないのに知り合いつて言うのかな……

マスノスケ あんなに鼻についていた匂いが、風の匂い、火の匂い、鉄の匂い
悩まされていた死臭さえも、飛んだ、飛んだなあ。朝日が海面から出る時
は、ふたつに分かれるんだ。

扉男 ……あの、

マスノスケ ……実物と、海面に映った偽物と。なのに、ゆっくり旅を終え、
夕日を迎える頃には海面に沈んでいく太陽は、映し出された偽物とまたひと
つに重なりあつていくんだ。見えるね、今沈む夕日が。

扉男 大丈夫ですか？

マスノスケ 沈む今になって、故郷を欲しがる自分と、女を欲しがる自分が、
ああ、やっと出会えたよ。

扉男 聞きますよ。ちょうど、死体相手に話すのに飽きてきたところだったか
ら。

日ので 見て。

日ので 夜明けだ。本当に、日が昇る。

扉男 ここは、

日ので ここは、

扉男 ここは……日本です。

突然。

言葉高道、キーを打つのをやめてパソコンを閉じた。
椅子から立ち上がり、パソコンと少し距離を取る。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉高道に向かって。

言葉小笠原 続きは？

言葉小西 続きだよ、続き。

言葉太田 だからこの次のページのこと。

言葉小西 もうあるんだろう？ この続き。

言葉小笠原 続きだつてば。聞こえてる？

言葉高道、じっと考えて。

言葉高道 空白の終わりは次の始まり。

言葉小笠原、言葉小西、言葉太田はパソコンエリアへ戻り、

言葉中川、言葉真嶋がReadingエリアへ。

言葉大路が椅子に座り、

言葉高道はそれをじっと見る。

言葉高道の代わりに、言葉大路、パソコンを再び開き、キーを打つ。

言葉大路 聞こえてくるのは遠くからなのか、頭の中からなのか？ テレビから

それともただの耳鳴り？ いや、これは真夏の蝉か。

ぽ、みつつめのあかりも灯る。

2005年 『改訂版 さっちゃん』

言葉大路 拍手はいつのまにか八神一人の拍手に変わる。

八神 はい。それでおしまいですよね。じゃあ、どうぞ出ていってください。

朝子 いやあね。5時になったからって勝手に幕引かないでくれる？

八神 カーテンコールって終わりでしょ？

朝子 まだお話の途中よ。見ればわかるじゃない。お座り。

八神 ほらやっぱりそうなる。ありえない。こんなに長い台本ありえないでしょう。

朝子 台本じゃないわ。これは記録よ。毎日書いてたのね、あの人。1日を24時間に、24時間を1時間ごとに細かく。言葉も風景も書き連ねて。見せてあげるって言ったけど、駄目よね、舞台の上に本物乗せたって嘘に見えるだけなのに。

八神 約束は守りましたからね。

朝子 一言、一言の、今までの記憶。燃えるための言葉。砂つまり病にかかると、燃える火まで消しちゃうから。火をつけるのには理由があるのに。

八神 ……え？

朝子 少女を埋葬する火と、女の恋の火、ならあの人、火は？

八神 ……

朝子 あららら？

八神 何ですか。

朝子 あんた、

八神 僕が何ですか？

朝子 砂つまり病？

八神 はあ？ それはお話の中のことでしょうか？ ごちゃ混ぜにして話すのはやめてください。

朝子 目が笑ってないわ。覗き込むとその奥で言ってる。ザザザザザー。

八神 目が笑ってないのは生まれつきです。

朝子 灰色のね、砂嵐みたいな目。何をしたいのか、どこに行きたいのかさえ分らない目。

八神 それは台詞ですよね。

朝子 なるほど、最近増えたのね。

八神 あはいはい、そうですね。腐るほどいるんじゃないんですか。

朝子 だったらあなた、駄目じゃない書いておかないか。病気なんだから、いつどこで何があつてどんな気持ちだったか。書いてないの？

八神 あなた、お芝居と現実の区別もつけられないんですか？

朝子 だって本当に降ったんだもの、あの人。

八神 あんた、本当におかしいんじゃないか……？

朝子 そうかもね。

八神 帰ります。

朝子 幕間の休憩ね。

八神 帰るんです。

朝子 なら明日もまたおいで。まだ終わってないんだから。

八神 明日にはあなたはここにはいないはずです。

朝子 カサなら貸してあげる。まだまだ止まないみたい。

八神 ……何がですか？

朝子 砂。見通し悪いわ。

八神 こっちまでおかしくなりそうだ。だから、

朝子 嫌だったんだ。こんなところへ来るのは？ お仕事タイヘンね。

八神 ……カサは、結構です。僕にはきれいな夕日が見えていますから。

朝子 見えていないのに見えるフリ、見えているのに見ないフリ。どっち？

八神 出て行く気なんか、はじめっからないんでしょう？

朝子 あるわ。だから初めてこうやってページをめくってるんじゃない。

八神 カーテンコール。その次のページは白紙じゃないですか。終わりでしょ？ いい加減にしてください。

朝子 そう、これがあの人の中の空白か。忘れてることさえ、忘れちゃったのよ。

八神 は？

朝子 この空白なら、私が覚えてる。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉大路、言葉高道に言った。

言葉大路 空白の終わりは次の始まり。

言葉澤田、言葉大路に連れて行かれるように、

言葉高道もReading エリアへ。

言葉真嶋、言葉中川パソコンエリアへ戻り、

今度は言葉太田が椅子に座った。

ぽ、よっつめのあかり、灯る。

2006年 『スパイク・レコード』

鎧 抜きました。

鎧 魚の骨も、獣の骨も、でもそのほとんどが人の骨かもしれません。目の前のベルトコンベアを流れていく土の中から骨を抜いて、いくつかに分けて一人分の骨が集まると骨壺に入れる。その先は知りません。トンネルの中にするすると伸びていくベルトコンベアに乗ったことがないのですから。だからあれは世界の穴に通じているんだと思っていました。朝の休憩は10時から10分。お昼休みは45分。3時のおやつは10分。5時30分にはベルトコンベアは止まります。私はタイムカードを押して眠ります。毎日の骨抜き作業が苦痛でもありません。それが当然だと思っていましたから。世界なんて知らなくても不満はないの。幸せよ。

鎧 そんな私を無知だと笑う男がいます。

鎧 世界の穴から、

鎧 私の耳に唇押し当てて、

鎧 にやりと笑った。これは八重歯でしょうか？ それともするどい牙でしょうか？ それとも傷をつける爪でしょうか？ それとも？

言葉太田 骨が言った。

言葉たち 「こんなに無知な僕らでも、未来を語ってもよいのだ」

妻 もしもし。

先生 ごめんごめん。ちよっと遅くなって、もうすぐ帰るから。初日だから、ほら例の転校生……

妻 今、空港なんだけど。

先生 は？

妻 雨降ってきたでしょ。洗濯物干したまんまだから。

先生 え、ちよっと待って。

妻 ちゃんと取り込んでおいて、洗濯物。

先生 え？ 何それ、旅行？

妻 観光じゃないわよ。

先生 何で空港？

妻 言ったでしょ、朝起きてすぐ。

先生 昨日の集会で話が盛り上がったんだろ？

妻 そうよ。

先生 靴を送ってあげようって。

妻 そうよ。裸足で瓦礫の上を歩いている写真見たでしょ。

先生 送るんだよね？

妻 物だけ送りつけるみたいな救援物資は嫌なのよ。今日届けに行くって言うたわよ。

先生 送るって言った。

妻 すぐに帰るわ。だから洗濯物、ほらすごい降ってきた。

先生 旅行なら一緒に行こうよ。

妻 遊びに行くわけじゃないのよ。

先生 同じだろ。

妻 本気で怒るわよ。

先生 お前がさ、その、何かイロイロやってるのはさ、

妻 何？

先生 ……暇だからだろ？

妻 暇つぶしだと思ってるわけ？

先生 だってさ、

妻 何か出来ないかって、私にも何か手伝えることがないかって思うことが、

暇つぶし？

先生 だってさ、働いてた時、そんなことしなかったじゃない。

妻 成長したの。あなたみたいにずっと無知なままじゃないの。知らないことは関係ない。戦争も差別も貧困も災害もあなたは知らないからそんなもの存在しないと思ってるのよ。無知って、平和でいいわね。

先生 俺はさ、出来もしないことばかり考えないんだよ。お前ひとりで何がどうなるわけ？

妻 だから何もしないって？

先生 じゃなくて、出来ることと出来ないことがあるだろう。

妻 私がやってることはね、先につながるの。10年や20年じゃなくてもっともっと先よ。

先生 そんなさ、遠くのことばかり考えないでよ。

妻 みんながあなたみたいだから、ちっとも良くならないのよ。

先生 そんなに駄目かな？ 目先のことだけ考えるの、そんなに駄目かな。

妻 だから、

先生 35歳になるまでに長男が生まれて、できれば年子で女の子も欲しい。

だったらチャイルドシートいいの買わなきゃ。風呂に入れるのはたぶん俺がするだろうし、年頃になったらどうせお父さんなんてどっかに忘れられるから小さい頃が勝負だろうな。俺が死ぬ頃に長男と長女が枕もとで孫なんか連れて、ああ悪くない。できればこの先50年くらいの幸せだけ考えることがそんなに駄目なのかな。

妻 同じよ、あなた。

先生 え？

妻 これから生まれてくる子どものためにも世界は平和でなくちゃ。

先生 その前にさ、

妻 何？ もう行かなきゃ。

先生 俺たちの家はちっとも平和じゃないよな。

妻 あなた……今ここには、ミサイルも銃弾も飛んできていないのよ。

先生 ……分かった。

妻 分かってくれた？

先生 じゃあさ、俺たちの知らないところで、俺たちの知らない国が、俺たちの知らないうちに、俺たちの住んでいるところめがけてミサイルをぶち込ん

だあとで、もう1回話し合おう。

言葉高道、パソコンエリアへ戻る。

入れ替わりに、言葉小西がReadingエリアへ。

言葉太田 外は土砂降りだ。

鎧 雨……？

先生 終わりじゃないよ、山田くん。いや、その君。大事なのはさ、これから先の年表を作ることだから。

鎧 あれは……

先生 目先のことでもいいんだ。たかだか10年先でいい。夢はいいよ。将来の夢、未来の夢、先なんて暗闇だから、手探りだよ。暗闇の未来を語ろうじゃない。

鎧 花火？

先生 誰が洗濯物なんか取り入れるか、へーんだ。

鎧 雨なのに……？

生徒 いいんですか？

鎧 ううん、違う。

先生 何が？

鎧 花火じゃなくて、

生徒 ……暗闇の未来を？ こんなに無知な僕が、未来を語っても、いいんですか？

鎧 光？

先生 ……いいよ、いいんだよ。そんなことは当たり前なんだから。

鎧 違う。

先生 そうだよ、これが俺に出来ることなんだ。俺は出来ることからやるぞ、

山田、じゃなくてその君。大きくなったら何になりたい？

鎧 光じゃなくて、

生徒 何になってもいいんですか？

鎧 それとも、

先生 いいよ。学者にだって、オリンピック選手にだって、ボクシングの世界チャンピオンにだって、何になったっていいんだよ。

鎧 あれは？

生徒 それなら、

鎧 あれは、

生徒 それなら僕は、

鎧 あれは何？

鎧だけが、暗闇の中に浮いている。

鎧 抜きました……魚の骨も……獣の骨も……でもそのほとんどが……人の骨
かもしれない……

鎧 あれは……何だったんでしょうか、突然の暗闇で……

鎧 誰か……灯りをください。真つ暗闇で、

鎧以外、見えるのはパソコンの光でうっすら浮かび上がる言葉たち。

ヒソヒソ、と声がする。

言葉たち、「ヒソヒソ」と語る。

鎧 誰でもいいから灯りをつけて！

ヒソヒソは止まない。

鎧 真つ暗で……自分の指先さえも……これは八重歯でしょうか？ もっとする
どい牙でしょうか？ それとも傷をつける爪でしょうか？ それとも？ 私が見
たあれは何だったんでしょうか……

ヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソ。

ふっと、消える。

暗闇から声がした。

生徒 それなら僕は、言葉になりたい。

鎧 犬も夢を見るのでしょうか。猫も夢を見るのでしょうか。草花も夢を見る
のでしょうか。風も夢を見るのでしょうか。空も雲も波さえも、夢を見るので
しょうか。骨は、骨も夢を見るの？ 語りかけ半ばの夢を、見るのでしょうか。

言葉大路、言葉澤田、言葉小西はパソコンエリアへ。

言葉太田、言葉中川はReadingエリアへ。

椅子には言葉真嶋が座る。

画面をじっと見つめ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉真嶋 壊れているのは私？ 世界？ どっちだ？

ぽ、

いつつめのあかりも灯る。

2007年 『三日月エレファント』

大象 どこまで膨らむんだろう。

女 どこまで膨らむのかしら。

大象 いつ出てくるんだろう。

女 いつ出てくるのかしらね。

大象 予定日は？

女 2月28日。ただし去年のね。

大象 まる2年じゃないか。

女 まる2年よ。

大象 おかしくない？

女 おかしいわよ。象だって今ごろ産んでるわよ。

大象 象なのか？

女 あなた象なの？

大象 今まで気がつかなかったけど実はそうなのか。

女 私象なの？

大象 今まで気がつかなかったけど実はそうなのかお前。

女 私の鼻は長くないし母さんも長くないの。何なのそのバカバカしい問いかけは。

大象 気が紛れるかと思って。

女 気はまぎれないしその上ムカついて腹立たしい。

大象 はい、リラックス。力抜いてプリプリしないで、はいー、リラックス

ス。

女 どうせお医者にも見放されたわ。

大象 はい、落ち着いてリラックス。

女 手におえないって。

大象 はい、興奮せずにリラックス。

女 どの病院行っちゃって、

大象 はい、リラックス。

女 想像妊娠ですなんて言う始末。なわけないじゃん！

大象 大声禁物、はい、リラックス。

女 私のお腹をグリグリ触りながら言うのよ。

大象 はい……

女 「ほら何も映らないでしょう？ まっくらです。どこまでも闇」あ。

大象 え？

女 動いた。

大象 動いた？

女 あ。

大象 え？

女 また膨らんだ。ちよつと触って。

大象 ほんとだ。また膨らんだ。

女 どこまで膨らむのかしら。

大象 この中に何人入ってるんだらうね。

女 何それ。

大象 これだけ膨らんでるんだから。

女 人数の問題なの？

大象 可能性の問題だよ。

言葉真嶋 女の腹に耳をあててみる。

大象 ……音がする。

女 音？ 音くらいするわよ。

大象 どこかで聞いた音みたいで。

女 だから、

大象 し。
女 ねえ、何の音？

言葉たち し。

大象 ……チリリン。自転車のベル？ アクセルを踏む、道路を横切る車、クラクション、パツパー、人の足音、軋んだ音は玄関の扉、新聞がポストへ投げ込まれた音、目玉焼きの焼ける音、階段を降りるのはハイヒール革靴スニーカー。ガチャリ鍵を閉めた音、始まりのチャイム、携帯の着信音、エレベーターは下へ上へ、昼過ぎにコンビニの自動ドアが開く、噂話、内緒のコソコソ、密談、商談、会議、授業、誰かのいびき寝息寝言、寝返りをうつ音、テレビのニュース、喧嘩、喧騒、悲鳴、火花？ いや、銃声、救急車、サイレン笑い声、罵声、ため息、水が溢れ出す音、蛇口をひねる……町だ……

言葉中川、言葉太田はパソコンエリアへ戻る。

今、Radangu エリアには誰もいない。

言葉たちはみんなパソコンエリアに。

言葉真嶋、じっと画面を見つめてキーを打つ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉真嶋 何が見える？

さっと椅子から立ち上がり、

今度は言葉小笠原が座りじっと画面を見つめてキーを打つ。

言葉小笠原 僕らの明日が書かれているかもしれません。

さっと椅子から立ち上がり、

今度は言葉中川が座りじっと画面を見つめてキーを打つ。

言葉中川 人が考えつくことなんて、現実はずぐに追いつくのよ。

さっと椅子から立ち上がり、

今度は言葉澤田が座りじっと画面を見つめる。

言葉澤田 この瞬間も、書いておかなきゃ。

そしてキーを打つ。

言葉真嶋、言葉高道、Reading エリアへ。

セリフは『箱師よ、その町の暁に釘を打て』から

言葉澤田 箱師は今も休むことなく作り続けている。何をつて？ 家、学校、病院、施設、映画館、劇場、ビル、町、全てを。箱師よ！

ぽ、むつつめのあかりも灯る。

言葉澤田 ああ、箱師よ。

2007年 『箱師よ、その町の暁に釘を打て』

研究者 私の口から、そんな言葉がこぼれて、

ヨスミ クリスチャン？

研究者 というわけでもないのに、ねえ。親を捨てようとしたその朝に、私は花壇の中、ダンボールに入った赤ん坊を拾いました。誰が捨てたのか、拾った私は途方にくれて、泣けてしまったんです。

ヨスミ 訳もなく、

研究者 意味もなく。私とは全く関係のないことなのに、なぜなんでしょうかね。今も不思議で、泣けるような、そんなものが、私にあったのかと。

ヨスミ 私は黄昏に泣いたけど、お宅は、

研究者 はい？

ヨスミ 昇る朝日に、祈ってたのね。

研究者 え？

ヨスミ 私も無宗教だけど、あるわ。どうしようもない時とか、お願いって思う時とか、いないって分かっているけど、祈ることがあるもの。

研究者 じゃあ、私は、

ヨスミ ええ……

研究者 何を祈っていたんでしょうか……？

ヨスミ これ以上時間がすぎない様に、じゃないの？

研究者 それは、ええ、確かに、

ヨスミ だって、まだその赤ちゃんが生きていたから泣けたんじゃないの？
研究者 え？

ヨスミ 死んでしまっていたら、きっと泣かなかったんじゃない？

研究者 それは……

ヨスミ お宅、きつと命に泣いたのよ。私と反対ね。

研究者 え？

ヨスミ 沈んでいく夕日に、ああ、こんな私でもまだ生きていかなきゃならな
いんだわって終わりを考えて泣けるとしたら、反対じゃない。だって朝日は、
希望だもん。

研究者 箱の中には、希望、ですか。

ヨスミ もうお弁当箱の中はからっぽよ。

研究者 希望ではなく、前兆らしいです。

ヨスミ え？

研究者 有名な、パンドラの話。

ヨスミ そうなの？

研究者 これから起こる全てのことがかかっていると、絶望するんだそうです。
ヨスミ ああ、そうね。70才まで1人きりでずっと弁当詰めてるって未来が
分かったら、今ここで助けなんてこなくていいって思うもの。希望って願望よ
ね。今よりもっとよくなる。ああなればいい、こうなればいい。だから頑張ら
なきゃ。食欲なくても食べなきゃね。食べなきゃね。

ヨスミ 人間ってよく出来てる。

研究者 ええ、全く。

ヨスミ 明日があるから頑張らなきゃねって。

研究者 明日……嫌な名前だ。

ヨスミ え？

研究者 明日と書いて、アスと読みます。

ヨスミ ええ、そうね。

研究者 でなくて、名前、私の。

ヨスミ ああ。

研究者 今のこの状況じゃあ、名前負けですね。

ヨスミ でも、青年の頃なら合ってたんじゃない？

研究者 青年の頃。青年だったから、泣けたんでしょか……

ヨスミ それでも、親は捨てたの？

研究者 ……はい。

ヨスミ そう。

研究者 拾った赤ん坊を警察に届けて、事務的なことを済ますと、私はすっかり元通りになってしまつて、泣けたあの瞬間は、どこに行つてしまつたんだろううって。

ヨスミ 後悔は？

研究者 さあ、どうでしょう。

ヨスミ 贅沢な話ね。

研究者 ええ、全く。

ヨスミ ねえ、あれからどのくらい経つたかしら？

研究者 希望はまだ、ありますから。

ヨスミ そうね、ここから出られたら、願望は、あるもの。

研究者 どんな？

ヨスミ お弁当詰めるわ。

研究者 え？

ヨスミ 仕事じゃないの。知らない誰かの口にほおりこまれるんじゃないで、誰かのために、カラッポのお弁当の四隅を埋めていくの。例えばそれが自分のためのお弁当の四隅を埋めたつていいわ。ねえ、知つてた？ 赤ちゃんが黄昏に泣くの、99%が寂しさのせいらしいわ……ね、今、

研究者 何か聞こえませんでしたか？

言葉高道は。パソコンエリアへ戻る。

研究者 当たり前前に目が覚めると、当たり前前にテーブルに朝食があつて、学校や会社に当たり前に出かけていくんです。当たり前前に夕食を囲む食卓に座つて今日の1日はあつたことだつたと話します。それから、もう大人なんだし1人で大丈夫。もう大人なんだし、仕事を見つけて、住む場所を見つけて、1人で大丈夫だけど、さらに知り合いを作つて、友だちを作つて、愛せる誰かを見つけて、そんなこと、誰だつて当たり前にすることなのよ、と言われて。私

は当たり前前にことに必死になりました。けれど必死になればなるほど、その理想の当たり前前から、どんどん遠ざかっていくようで、

研究者 ……あれから、どれくらい経ったんでしょうか？

研究者 こういう時って、他の人はどうしているんでしょうか……？

研究者 すいません、今、話しかけてみたんですけど。

研究者 独り言だったら、それに答えられると妙に気恥ずかしいんですが、

研究者 ……答えてください。

研究者 あれから、どれくらい時間が経ったんでしょうか……

研究者 時間を、止めることは出来ないんでしょうか？

研究者 まだ、俺にも、あったんだ。だったら、なんでだろうなあ。昇る朝日に泣いて、沈む夕日に泣けるくらいなら、なんてことない昼間を、もっと大切に出来たかもしれないのに。携帯さえつながれば、連絡も取れるのに……

研究者 箱の、隅っこ、あったのは、前兆。

研究者 だから、まだ大丈夫。まだ、願望はある。まだ……

研究者 何が見える？

2008年 『100年トランク』

言葉真嶋はパソコンエリアへ戻り、

言葉小笠原、言葉澤田はReading エリアへ。

椅子には言葉小西が座り、キーを打つ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉小西 見えてないのに見えるフリ、見えているのに見ないフリ、どっちだ？

ぽ、ななつめのあかりも灯る。

2008年 『100年トランク』

カタメ ラーンラ ランラン ランランランラン 蝶々でさえも 二匹でいる
のに なぜに僕だけ ひとりぼち ラーンラ ランラン ランランランラン

トラ あの時は、美しく見えたはずなのにな……

言葉小西 トラのトランクが少し開いて、カタメの手だけが見えた。

カタメ よろしいの？

トラ 何が？

カタメ 何かを頼もうとしたでしょう？

トラ やめた。

カタメ そう。

トラ あの時は、美しいと思ったのにな。

カタメ それがあなたの本心なのね。

トラ 違う。蠟燭の明かりで騙されたんだ、きつと。

カタメ 連れ出したのはあなたでしょ？

トラ はじめから太陽の下だったら、こんなことには。

カタメ 基準はいつでも変わるじゃない。手に入れた途端に色あせるとか、釣った魚に餌はやらないとか。

トラ 男女関係の例えは使うな。

カタメ 身持ちが固くなければ私だって、

トラ だって、何だ？

カタメ 今まで出会いはあったのに。ダメねえ。固すぎるのも。というのは建前で。

トラ うん？

言葉小西 カタメはトランクの中からひよいと顔を見せ、トラは思わず目をそむける。

カタメ 醜い顔でしょ。恐ろしいでしょ。人が見れば笑うか、卒倒する顔よ。

目をつむれば見えないのに、身持ちが固いのは私のせいではないわ。

トラ やっぱり太陽の下が真実だろう。

カタメ それは言い訳かもね、あなたが醜い、醜いっていうから、私もそんな気になってきただけかもしれないわよ。

トラ 他の人間だって、お前を見て驚いていたじゃないか。

カタメ あなただって人は、周りの意見に振り回されるのね。

トラ それもひとつの基準だろう。

カタメ 人形のフリしなきゃトランクから出られないって言うなら、ちようどいいわ。あなたは人形師、私は人形、それで日銭を稼いで生きていきましょ。

トラ 結婚したのは、ただの勢いだ。

カタメ だけど妻だと紹介したじゃない。

トラ 妻とは言ったが、お前とは一緒に寝てない。

カタメ 形だけでいいのよ。どうせ身持ちが固いんだから。

トラ トランクごと、あの運び屋にどこかへ運ばせることも出来る。

カタメ でもしなかったじゃない。

トラ それは、どうせどこかに置いても、すぐに足がつくから……

カタメ もう帰る場所もないもの。あなたと一緒に行くしかないわ。さ、何を
して差し上げたらいいかしら？

トラ そんなに妻だつて言うなら、私のすることに文句は言わないこと。
カタメ イガイと古いタイプなのね。

トラ 私がどこへ行こうと、何をしようと。

カタメ とことん古いタイプね。

トラ 私は今から旅の目的をひとつ持つことにしよう。

カタメ どんな目的？

トラ 世界の果てにお前を捨ててに行くんだ。

カタメ 世界の、果て？

トラ どこか適当なところにお前を捨てても、すぐに戻ってくるだろう。いつも徒劳感いっぱいになる。だけど、世界の果てだ。そこならどこからも足つかないと思わないか？

カタメ 世界に果てなんてあるのね。知らなかった。世界は丸いから終わりは無いと思つたのに、あるのね。そこはどこにあるの？ 行つてみたいわ。

トラ それは、だから……だから今から探すんだよ。

カタメ いいわ。世界の果てまで連れて行つてちょうだいよ。果てが見つかるまでは生活しなくちゃいけないから、やっぱり私は人形で、あなたは人形師ね。

言葉小西 カタメはスポットとトランクにすっかりおさまつて、声だけが聞こえる。

カタメ さ。運んでちょうだい。人形師のあなた。

セリフは『くちなしジヨッキイ』から

かすかに聞こえる「右、左、右、左」

言葉たち「右、左、右、左」

右、左の号令の中、

言葉澤田はパソコンエリアへ。

言葉高道と、言葉小西はReadingエリアへ。

言葉小笠原はReadingエリアに留まるが、立ち位置は変わる。

椅子には誰も座らない。

ぽ、やっつめのあかりも灯る。

言葉たち、パソコン画面に群がった。

「右、左、右、左」は聞こえ続ける。

2009年 『くちなしジョッキイ』

シラケ シラケているのは仕方がない。思い煩う内臓がありませんから。カラップですから。恐怖感はどこから来ますか？ 罪悪感はどこから来ますか？ 絶望感はどこから来ますか？ 敗北感は？ 焦燥感は？ あるいは幸福感はどこから来ますか？ 悩むとキリキリ痛む胃、何かを吸収する小腸、笑うと上下する横隔膜、誰かを想って苦しくなる胸。早鐘になる心臓。この内側にはそれがない。どこまでも風景はシラジラと。この内側のカラップ埋めるために、だからひとつ、売ってもらえやしませんか。

「右、左」が囁きから、弾けるような声に変化して。

言葉たち 右、左、右、左。

僕 列は乱すな、

言葉たち はみ出すな。

僕 登校下校、

言葉たち かたまつて。

僕 青信号でも、

言葉たち 手上げて。

僕 知らない人には、

言葉たち 知らんふり。

僕 危ない奴には、

言葉たち 近づくな。

僕 やられる前に、

言葉たち やつたるで。右、左、右、左、右、左……

言葉中川 これ、いつまで続くん？

言葉大路 あれのせいや。行方不明の女子。隣のガッコの。

言葉太田 誘拐やる。

言葉真嶋 家出ちゃう？

言葉澤田 四次元ハマったんやつて。

言葉太田 マジで！ 帰り道に！？

言葉真嶋 ちよー、怖いって、列からはみ出すなつて。

言葉澤田 はみ出すなやプール開きで。

言葉たち ぎやはははは。

言葉中川 男子サイテー。

言葉大路 それから？

言葉真嶋 それつきり。

言葉大路 最近多くない？

言葉太田 新たなる拉致や、拉致。

言葉澤田 教頭のズラを拉致ったの俺やー、いうねん。

言葉たち ぎやはははは。

言葉中川 笑い事ちゃうつて。

言葉真嶋 四次元はまったんやつたらケーサツなんか太刀打ちできひんやん。

言葉澤田 アホかーいうねん、なんやねん四次元つて。

言葉大路 だって知ってる？ 南校舎、ありえへん5階に続く階段があるんやつて。

言葉太田 その階段昇ったやつ、帰ってこーへんかったつて。めっさ怖い鬼怖いって。

言葉中川 ウワサやろ。

言葉太田 ガッコの七不思議。

言葉澤田 ラッコの七不思議。

言葉太田 知ってる。あいつらワキのところにポケットありよんねん。

言葉真嶋 電車に乗ってる赤い女のウワサって知ってる？

言葉大路 知ってる。全身、マユゲまで赤色なんやろ。

言葉真嶋 3回見ると死ぬんやって。

言葉大路 知ってる。よしこ2回見たって。

言葉真嶋 むかし、口裂け女っておったん知ってる？

言葉たち 知ってる。

言葉真嶋 あれホンマやったんやって。

言葉太田 あれは米軍の噂調査やつつの。

言葉澤田 あたしキレイ？

言葉たち ぎやはははは。

言葉真嶋 やめるや。今マスクしてるやついっぱいおるんやから。

僕 カラッポ男って知ってる？

言葉たち 知らーん。

僕 返せ返せって腹さばきにくるんだ。そいつはきつとマスクして人ごみ混じってる。

言葉たち おおい！

僕 マスクで顔隠して、でも本当はそのマスク。

言葉たち そのマスク？

僕 秘密シャットアウト専用。

言葉たち おおう。

僕 人ごみすれ違い様に腹かっさばいて、

言葉たち おおう。

僕 内臓ごっそり盗っていく。

言葉真嶋 ナンやねんやめるや、今マスクしてるやついっぱいおるんやから。

僕 秘密シャットアウトだから誰の内臓かは分からないけどその男、言葉たち うん。

僕 くちなしの匂いのする内臓探してるんだって。

シラケ なぜ泣かないのかと言われました。

梶子 誰に？

シラケ 人に。街に。泣かない人間は人を愛せないと言われました。愛せない人間は人の苦しみが分からないと言われました。苦しみが分からないと助けることができないと言われました。助けることができないと誰からも助けてもらえないと言われました。だから自分でなんとかするしかない。

梶子 ……今、もしかして悲しいん？

シラケ いいえ。事実を言っただけです。

梶子 ほんまに？ 私にはすごい悲しそうに聞こえたから。

シラケ 君の気持ちの取り方の問題です。

梶子 そんなに、ほしいん？

シラケ それが始まりです。

梶子 どうしたら気が済むんやろうねえ。

シラケ 気持ちの持ちようじゃないですから。

梶子 あのなあ、あるって想像してみたら？

シラケ イメージトレーニング、とかいう。

梶子 私の全部あげる。

シラケ は？

梶子 って、想像してみたら。具体的やん。

シラケ それは困る。内臓が出来たら恋をするんだから。

梶子 それも恋やん。そう思うねん。だって、ほら、私は、誰とも繋がらへんけど、もしかしたらシラケとは繋がれるかもしれへん。私の心臓が、シラケのここに入る。

梶子 肺はここ。横隔膜はここ。

梶子 胃、小腸、大腸、盲腸、腎臓、肝臓、裂けられへん私は、シラケの内臓から繋がる事が出来るかもしれへんやん。繋がると、恋やと思わへん？

シラケ それじゃ意味がない。俺は俺でこの無表情がなくなると、君は君でそこにいて、

梶子 ……私、シラケの無表情怖ないよ。

シラケ それは……？

梶子　なんでやろねえ。分からんな。よく分からんけど。

シラケ　涙が出るのが、うらやましい。

梶子　ハゲが出来たんやから、泣くわ。

シラケ　あんなに水を飲み干しているのに、その水が目から流れるだけでいいのに。

梶子　知ってた？ 流れる理由で味が違うの。

シラケ　涙が？

梶子　あくびの時の味は薄くて、怒ってる時は苦いねん。

シラケ　悲しい時は？

梶子　塩辛い。

シラケ　くちなしの匂いがする。

ドン

ドン

ドン

ドン、と響いた。

地鳴りのような、

太鼓のような、

大砲のような。

地鳴りのような音がする。

言葉小笠原と言葉小西はパソコンエリアへ。

言葉澤田、言葉真嶋はReading エリアへ

椅子には言葉高道が再び座る。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉高道　　こんなを書いた覚えがない。

ぼ、このつめのあかりも灯る。

2010年 『照準 ZERO IN』

息子　久しぶりに実家に帰ったんです。

医者　はい。

息子　ムシの知らせってやつです。

医者　はい。

息子　こんなことが起こるもんなんでしょうか。

医者　よくありますね。

息子　よく、あるんですか。同じような症状で、他の人も、

医者　よくあります。

息子　だって、先生。人間が縮んだりするもんでしょうか。

医者　男根だって伸び縮みするじゃないですか。

息子　は！？

医者　あらご存知ない？　あなたお持ちじゃない？

息子　ありますよ。

医者　じゃ、伸び縮みしたことないってこと？ 膨らまないの？ 悩んでるの？
ごめんなさい無神経で。

息子　私の男根問題ではなくて、

医者　はい。

息子　母が縮んでしまったんです。

ドン、と響いた。

地鳴りのような、

太鼓のような、

大砲のような。

言葉真嶋は、Reading エリアにとどまったまま、

言葉中川、言葉小笠原がReading エリアへ。

ビフオア　あー縮んじやった。

アフタ　あー萎んじやった。はいこれ見て。

ビフオア　説明書。

アフタ　割愛するけど、

ビフオア　注意書きなど、

アフタ　読んどいて。

ビフオア　とりあえず

アフタ　これ、

ビフオア　口に入れる、

アフタ　そして、

息子　ちよつと、

ビフオア　はい手どけて、

アフタ　あとはここを、

ビフオア　シュコシュコするだけ。

息子　空気入れに見えるんですけど。

アフタ　はい手どけて。

息子　高い金払って、これ？

ビフオア　人気商品です。

アフタ 今だけのキャンペーンで、
ビフォア もう一個ついてくるね。

息子 母親一人だから。

ドン、と響いた。

地鳴りのような、

太鼓のような、

大砲のような。

言葉中川、言葉小笠原はReading エリアにどどまったまま、

言葉小西、言葉太田もReading エリアへ。

講師1 はいごきげんようどうぞ。

息子 良かれと思つて医者に行ったのに。

講師2 呼吸を整えて。吸つて吐いて。体制キープ。

息子 どうしてこんな格好をさせられているのか。

講師1 母親といえ子守唄ですわ。

息子 聞いたことありません。

講師2 まさにあなたみたいな人に来てほしいワークショップですから。

息子 あ、はあ。

講師1 はい、年々ゴロゴロしていた僕が、続きましょう。

息子 歌えばいいんですか？

講師2 歌を栄養にシュコシュコしてくださいな。

息子 それで元に戻るんですか。

言葉小西、言葉太田はReading エリアにどどまったまま、

言葉大路もReading エリアへ。

嫁 イスラエル地区が縮んでレバノン地区になってそのしわ寄せでイラク地
区が縮んでイラン地区が縮んでアフガニスタン地区が縮んでもうイスラマ
バード地区になったところがさらに縮んで中国地区が縮んでソウル地区が縮
んで、

嫁 縮んだって、地球の話でしょ。

息子 母さんの話。

嫁 どうしてお義母さんが縮まなきゃならないの？

息子 俺だよ。

嫁 え？

息子 俺が、栄養、摂りすぎたんだよ。だから、

嫁 だから？

息子 返さなきゃ。そしたら、元に戻るんだから。そのために、良かれと思つて医者行つて、民間療法行つて、ワークシヨップ行つて、そしたら、

嫁 請求書。

息子 こんなときくらい、ナンかしてやりたくて。

嫁 ずっとほつたらかしてたのに？ 今さら？

息子 だから、

嫁 付き合つてるときからあなた天涯孤独なのかと思つてたのよ。結婚式だつて呼ばなかったし、お正月だつて、誕生日だつて、あたしが無理やり電話したんじゃないの、ナンかしてあげられる時間はいっぱいあったのに、それが今さら？

息子 だから今、後悔してるんだろ。

言葉高道はキーを打たない。

ただ読み上げる。

言葉高道 息子は空気入れを片手に説明書を読む。

息子 ♪年々ゴロゴロ していた僕が あなたに 還してあげましょう もらったいろはと ちりぬるを♪

言葉高道 空気入れで母親に栄養を入れる。シユコシユコ。母親の皮膚が伸びている。ゆらり、と風船のように、母親は風に揺れた。

息子 こんなだったかなあ。

言葉高道 息子は説明書を取り出して。

息子 「完全に元に戻るまでおこなってください。途中でやめると再生が不可能になる恐れがありますのでご注意ください、

息子 ヤバイヤバイヤバイ。年々ゴロゴロしていた僕が、

言葉高道 シュコシュコ。どんどん膨らむ。シュコシュコ。

息子 こんなだったかなあ……こんな人だったかなあ……

息子 元に、戻るまで、って、元につて、元は、どんなだったっけ……？

言葉高道 ゆらり、母親の大きな瞳が息子を見下ろす。

息子 しまった。また後悔だな。

息子 どんな人だったか、母さん。ほったらかしてたからさ。俺母さんのこと何にも知らないよ。

言葉たち ドン。

言葉高道 銃撃戦が始まる。大きく膨らんだ母親の体を、いくつもの砲弾が通り過ぎる。母親の体は弾けて、千切れて、四方八方に飛び散る。その母親の体の中から、大量の色とりどりの紙吹雪。

言葉たち ドン。

言葉高道 ドン。

言葉たち ドン。

言葉高道 ドン。

言葉たち ドン。

言葉高道 パレードがやってくる合図のようだ。

言葉たち ドン。

言葉小笠原 か

言葉小笠原・小西 か

言葉小笠原・小西・大路 かみ

言葉小笠原・小西・大路 かみふぶ

言葉小笠原・小西・大路 かみふぶきが

言葉中川・真嶋・太田 かみふぶきが舞って

言葉小笠原・小西・大路 まって

言葉中川・真嶋・太田 待って

息子 パレード

言葉たち パ

言葉たち パ

言葉たち パ

息子 パレード

言葉小笠原・小西・大路 掛け声

言葉小笠原・小西・大路 行進

言葉小笠原・小西・大路 コスチューム

息子 パレード

言葉中川 そ

言葉中川・真嶋 そ

言葉中川・真嶋・太田 それぞれ

言葉中川・真嶋・太田 どれどれ

言葉中川・真嶋・太田 それぞれの

言葉小笠原 じ

言葉小笠原・小西・大路 じ

言葉小笠原・小西・大路 じ

言葉小笠原・小西・大路 時代は

息子 パレード

言葉中川・真嶋・太田 それぞれの

言葉小笠原・小西・大路 掛け声行進コスチューム

言葉中川・真嶋・太田 それぞれの

言葉小笠原・小西・大路 ルール

息子 パレード

言葉中川・真嶋・太田 歩く

言葉中川・真嶋・太田 進む

言葉中川・真嶋・太田 先へ

言葉小笠原 じ

言葉小笠原・小西 じ

言葉小笠原・小西・大路 じ

言葉小笠原・小西・大路 時代は

息子 パレード

言葉たちの ように

言葉中川 す

言葉中川・真嶋 す

言葉中川・真嶋・太田 進む歩く行進先へ

言葉小笠原・小西・大路 太陽は

言葉中川・真嶋・太田 こちらから

言葉小笠原・小西・大路 足元に
言葉中川・真嶋・太田 影
言葉小笠原・小西・大路 残して
言葉中川・真嶋・太田 影
言葉小笠原・小西・大路 進む
言葉中川・真嶋・太田 影
言葉小笠原・小西・大路 歩く
言葉中川・真嶋・太田 未来の
言葉小笠原・小西・大路 影
言葉中川・真嶋・太田 先へ

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2004年 『フルオーケストラ』

言葉高道・大路 ズレてるんだ、きつと。だってしようがない。見て、馬鹿
ばっか。馬鹿が奏でる日常だ。あの中でズレないほうがおかしい。

言葉たち パ

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2005年 『トキシラズ』 黎明編

言葉高道・小西 本当に俺、どこまできちやっただらう。帰る玄関探し続け
て、どこまできちやっただらう。せめて、せめてさ、誰か知り合いにでも
出会えれば、なんか、まだ気持ちも落ち着くの。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2005年 『トキシラズ』 望郷編

言葉高道・小笠原 目に見えない香りは記憶と同じ。その香り、嗅いだ記憶と
一緒に残っています。覚えのない生まれる前の香りでも、忘れてしまったあ
の日の一瞬、それでも体が覚えていています。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2005年 『改訂版 さっちゃん』

言葉高道・中川 これあんたが書いた本。始まりの言葉があるの。ねえ、人間
は何で出来ていると思う？ 燃えずに生きていけると思う？ 絶対に忘れられ
ないことであると思う？

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2006年 『スパイク・レコード』

言葉高道・小西 ただ頭の溝に情報叩き込んで、骨身に染みるまで繰り返す。
そうすりや骨だけになったとしても、染み込んだ言葉でいとしい人の骨見抜けるでしょうか。先生、僕が語った未来そのものが目の前にあります。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2007年 『三日月エレファント』

言葉高道・太田 仕事の書類の山、給料明細、押し付けられた残業、ニヤニヤする上司、使い物にならない部下、えい、吸ってしまえ。ひとさじの幸福、ひとさじの不安、ひとさじの憎しみ、ひとさじの悲しみ、ひとさじの痛み、ひとさじの怒り、ひとさじの、どうでもいいか、どうでもいいか、どうでもいいか、えい、吸ってしまえ。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2007年 『箱師よ、その町の暁に釘を打て』

言葉高道・真嶋 箱師なら、地球の裏側の、その外側までも作った箱師なら、

せめて、これ以上時間が過ぎないように、あの夜明けに釘打つことくらい出来るんじゃないでしょうか？

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2008年 『100年トランク』

言葉高道・澤田 カタメ。カタメ。返事を、しないのか？ 長く、旅を続けすぎたか？ カタメ、ずいぶん、長い間旅を……ああ……世界の果てだ……

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2009年 『くちなしジョッキイ』

言葉高道・小笠原 底のソコまで。見えなくても何か描けばそれが想像につながる。そのうち想像がソコブチ破って進化する。そしたら速いんだ。想像が進化して、今度は僕が追いかけられる。その時、何が起るんだらう。梶子の匂いがする僕に、何が起るんだらう。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2010年 『照準 ZERO IN』

言葉高道・大路 後悔はまだ見たことがない。見るんじやなくて、やってくる
のよ。遠い向こうのほうから、ゆっくり。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たちはパレードを繰り返す。

言葉たちの声に呼応するように、

今までひとつずつ灯っていたはずの灯りが、

パツ……パツ……と、点滅し始める。

明滅する。

パパパパ……

パツ……

パツ、

ひとつ、ひとつ、最後の灯りを振り絞るように、

消えていく。

言葉たちはそれでもパレードをやめない。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ

言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉高道、パタリとパソコンを閉じた。
言葉たちも止まった。
灯りはかろうじて最後の一つきり。
それも明滅をしている。
その灯りをじっと見つめ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉高道 何をしたいか分からない。何を書きたいか、もう……

言葉たちは、明滅する最後の灯りの下に集まる。
今にも消えそうな灯りを見上げて。
ひとりの俳優が、手を挙げた。
もちろんあかりは高くて届きはしない。
またひとり、手を挙げた。
ひとり、またひとり。
やがて言葉たちはみんな灯りを掴もうと手を挙げる。
その時ふっと、
あかりが消えてしまった。
いや、消えてしまったのではない。
ただ落ちたのだ。
手を挙げた言葉たちの手の中に。
指の隙間から、溢れるかすかなあかり。
そのかすかなあかりを手に包み込み、
言葉高道に差し出した。

セリフは『凜然グッドバイ』から

言葉澤田 見えます。

言葉中川 見えるか。

言葉真嶋 見えます。

言葉小笠原 何が見える？

言葉小西 見えませんか？

言葉大路 見える。

言葉太田 言葉。

言葉澤田 見える。

言葉中川 ハロー。

言葉真嶋 見える。

言葉小笠原 グッドバイ。

言葉小西 見える

言葉大路 いつかまた。

言葉太田 見える。

言葉澤田 いつしかまた。

言葉中川 見える。

言葉真嶋 ハロー。

言葉小笠原 見える。

言葉小西 グッドバイ。

言葉大路 見える。

言葉高道 ハロー……

言葉太田 見える。

言葉高道 グッドバイ……

言葉たち、灯りを手に歩き出した。

一列に連なって、客席の通路を歩き、

扉を開けて、劇場を出る。

劇場の外へ、外へ。

灯りを連れ出していく。

言葉たちの後ろ姿を見て、

言葉高道 言葉が、皮膚の下で這い回りはじめました。

言葉高道もまた、劇場の外へ。

言葉を外へ連れ出すのは、いつだって俳優たちだ。

おしまい